

調査2 次期地域保健福祉計画策定に伴う調査

調査2-① 現行計画の評価

留意事項:「施策の方向」の枠でとらえた現行計画の現時点の評価をしてください。

【選択肢】
 S: 大いに効果を得た。
 A: 効果を得た。
 B: 取組みをしたが効果を得られなかった。

【選択肢】
 S: 特に積極的に取り組む。
 A: 効果上昇をめざし継続実施。
 B: 現状維持のため継続実施。
 C: 縮小する。
 D: 廃止・終了する。

基本理念	基本目標	施策	施策の方向	関連課	現行計画の現時点の評価 (取組みの結果、効果を得たか)	評価の主な理由 評価の理由を記入してください。また、評価の指標となる数値(参加人数、回数、受診率など)があれば盛り込んでください。数値で表せない場合は、工夫した取組や、充実した点を記入。	今後の方向性 次期計画期間の方向性 (令和2年度から5か年)	回答コード (ガイドラインに該当するコード、複数可)
笑顔あふれる安心して暮らせる保健福祉都市をめざして	【基本目標1】安心・安全に住み続けられる環境づくり	【重点課題】 (1)健康づくり・生きがいの充実	①健康寿命を延ばす取組みの推進(健康づくり・介護予防)	健康課	S: 大いに効果を得た。	各法に基づいた健(検)診事業やめざせ健康あきる野21(第二次)に基づき地域活動の推進、健康づくりに関わる関係機関・団体が「協働」して健康づくり活動に参加・協力により、高い水準での健康寿命を維持することができた。	S: 特に積極的に取り組む。	2 12 17 18 24
				高齢者支援課	A: 効果を得た。	介護予防に注意が必要な方に対し、介護予防教室や歯科予防講座等を開催し、介護予防の普及啓発が図れた。	S: 特に積極的に取り組む。	2 24 25
				学校給食課	A: 効果を得た。	食育授業を通じて健康づくりに寄与することができた。試食会での食育講演を通じて、家庭における健康づくりに寄与することができた。	B: 現状維持のため継続実施。	2 24
			②社会参加・生きがいの充実	障がい者支援課	A: 効果を得た。	障がい者の積極的な社会参加を支援するため、移動支援の提供を行った。介助員の支援を受けながら、自身が行きたい目的地に行き、文化・スポーツ等の社会参加をすることができた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	2
				高齢者支援課	A: 効果を得た。	ボランティア活動や高齢者クラブへの参加を促し、高齢者の地域貢献や社会参加を支援することができた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	2 23 24
				生涯学習推進課	A: 効果を得た。	市民解説員が習得した知識・技術を活かせるよう市内探訪、定期解説、派遣解説活動等を展開するとともに、より活動の場を拡げるため、産業祭への参加や町内会・自治会連合会との協働事業として「親子そろって地域探訪」を実施するなど、活動機会を充実することができた。また、ITボランティアを講師として、パソコンQ&A講習やパソコン活用講座を実施したほか、ITボランティア相互の技能の向上を目指し、ITボランティアによる勉強会(ITボランティアサロン)を開催することで体制を強化できた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	2 23 24
				健康課	S: 大いに効果を得た。	地域イキイキ元気づくり事業など、実施会場が増加し、市民の生きがいの体制ができた。49箇所から51箇所(1箇所休止中)	A: 効果上昇をめざし継続実施。	2 12 17 24
			スポーツ推進課	A: 効果を得た。	スポーツ推進計画に基づき、関係機関と連携を図りながら事業を実施し、多くの市民が参加できる機会を提供できた。	B: 現状維持のため継続実施。	2 24	

(2) 保健・医療・介護の提供体制の充実	①地域における医療体制の充実	健康課	A: 効果を得た。	地区医師会及び歯科医師会と拠点病院である阿伎留医療センターとの連携を推進し、市民が安心できる医療体制の充実を図り、休日診療(休日歯科診療)や準夜診療を含め、「かかりつけ医」づくりができた。	S: 特に積極的に取り組む。	2 17 18
	②在宅医療と介護の連携の推進	高齢者支援課	A: 効果を得た。	医療・介護関係者間での情報共有・連携や認知症初期集中支援チームの設置により、医療など適切な支援へつなげる体制づくりができた。	S: 特に積極的に取り組む。	2 17 18
(3) 防災・防犯体制の充実	①地域防災力及び防犯体制の強化	地域防災課	A: 効果を得た。	防犯協会、警察署と連携し、充実した啓発活動ができた。防災行政無線やメール配信サービス、青色防犯パトロールなどを活用し効果的な啓発ができた。自動通話録音機の貸与により特殊詐欺被害を未然に防ぐ環境づくりが進んだ。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	2 21
		障がい者支援課	S: 大いに効果を得た。	①地域防災課と連携し、避難行動要支援者名簿の作成に向けて、対象者を把握した。 ②防災意識の向上を目的とした、「あきる野市障がい者防災・スポーツフェア2018」では、多くの障がい者が参加し、バケツリレー、初期消火体験など多くの防災体験をし、防災意識の向上を図ることができ、目的を達成した。	B: 現状維持のため継続実施。	21
		高齢者支援課	A: 効果を得た。	防災・安心地域委員会との連携により、高齢者の見守りを行うとともに、避難行動要支援者の把握を行う体制づくりができた。	B: 現状維持のため継続実施。	21
(4) 人にやさしいまちづくり	①ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたまちづくりの推進	建設課	A: 効果を得た。	道路整備に合わせ、歩道の段差解消等を実施した。	B: 現状維持のため継続実施。	16
		生活福祉課	A: 効果を得た。	福祉のまちづくり条例に基づき適切な指導、助言を行うことができた。	B: 現状維持のため継続実施。	16

基本理念	基本目標	施策	施策の方向	関連課	現行計画の現時点の評価 (取組みの結果、効果を得たか)	評価の主な理由 評価の理由を記入してください。また、評価の指標となる数値(参加人数、回数、受診率など)があれば盛り込んでください。数値で表せない場合は、工夫した取組や、充実した点を記入。	今後の方向性 次期計画期間の方向性 (令和2年度から5か年)	回答コード (ガイドラインに該当するコード、複数可)
笑顔あふれる安心して暮らせる保健福祉都市をめざして	【基本目標2】地域で助け合い、支え合う仕組みづくり	(1)地域力の強化	①支え合う地域づくりの推進	地域防災課	A:効果を得た。	自分たちの住んでいる地域を自ら住みよい環境にすることや住民同士が支え合う地域づくりを推進する町内会・自治会の活動を支援をすることができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	23 24
				生涯学習推進課	A:効果を得た。	あいさつ標語カルタ大会は、青少年委員、青少年健全育成地区委員会連絡会との協働により、小学1年生から大人までの幅広い年齢層が一堂に会し、交流を深めることができた。中学生の主張大会は、市内6中学校と菅生中学校から選出された14人が自分たちの思いを発表し、多くの来場者より「感動した」という感想をいただいた。	B:現状維持のため継続実施。	24
				生活福祉課	A:効果を得た。	各関係機関と連携を図り必要なサービスにつなげる体制づくりができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	4 17 24
				障がい者支援課	A:効果を得た。	市内の障害に関わる団体、事業者、関係機関で構成する地域自立支援協議会の場で、障害に係る地域課題の解決に向け協議等を行い、障がい者の地域生活を支える関係機関、事業者などの連携が図られ、障がい者支援に係るネットワーク体制の強化が図られた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	22 24
				高齢者支援課	A:効果を得た。	地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、地域ぐるみの支え合い推進協議体との連携により、地域の中で支え合う体制づくりができた。	S:特に積極的に取り組む。	17 24
		[重点課題] (2)見守り体制の充実	①見守りネットワークの充実	高齢者支援課	A:効果を得た。	新聞配達、乳酸菌飲料配達等の事業者や防災・安心地域委員会等の協力により、見守り活動を行う体制づくりができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	21
				生活福祉課	A:効果を得た。	民生委員・児童委員と町内会自治会やふれあい福祉委員等が協力し、見守り活動を行う体制づくりができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	21
				地域防災課	A:効果を得た。	防災行政無線による地域の見守りの協力依頼により、見守り活動を支援することができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	2 21
				子ども政策課	A:効果を得た。	地域の絆を深めるとともに、郷土愛を持った「あきる野っ子」を育てるため、大人たちの知識、経験などを生かして、それぞれの地域における子どもの安全・安心の確保と健全な育成を担うあきる野市地域子ども育成リーダーを養成することで、見守り活動を行う体制づくりができた。	S:特に積極的に取り組む。	21 23
				障がい者支援課	A:効果を得た。	一人暮らしの障がい者が安心安全の中で日常生活を営めるよう、障害者緊急通報システム事業を実施した。	A:効果上昇をめざし継続実施。	2 21
	社会福祉協議会 (生活福祉課)			A:効果を得た。	市内83地区でそれぞれ工夫した活動を実施することにより、見守り活動を行う体制づくりができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	21 23 24 29	
	②虐待防止ネットワークの充実		子ども家庭支援センター	A:効果を得た。	関係機関との情報共有を目的としたケース会議、立川児童相談所とのケースカンファレンス、教育委員会、教育相談所等とのケースカンファレンス、その他連絡会等開催と要保護児童対策地域協議会での会議を実施し、関係機関と虐待防止への連携を図った。 また、るのキッズ通信や子育て応援メール等での情報発信、子育てグループの育成、活動支援によりネットワークの充実を図った。	A:効果上昇をめざし継続実施。	10	
			障がい者支援課	A:効果を得た。	障がい者虐待防止ネットワーク会議を開催し、虐待防止の体制を充実させることができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	10	
			高齢者支援課	A:効果を得た。	高齢者虐待防止ネットワーク会議を開催し、関係機関の連携を強化することができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	10	
			健康課	A:効果を得た。	各乳幼児健診の場での健やか親子21アンケートの実施や各相談を通して、地区担当保健師等が子ども家庭支援センターと連携し、虐待防止の体制づくりができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	10	

基本理念	基本目標	施策	施策の方向	関連課	現行計画の現時点の評価 (取組みの結果、効果を得たか)	評価の主な理由 評価の理由を記入してください。また、評価の指標となる数値 (参加人数、回数、受診率など)があれば盛り込んでください。 数値で表せない場合は、工夫した取組や、充実した点を記入。	今後の方向性 次期計画期間の方向性 (令和2年度から5か年)	回答コード (ガイドラインに該当 するコード、複数可)
笑顔あふれる安心して暮らせる保健福祉都市をめざして	【基本目標3】適切なサービスを提供できる体制づくり (1)相談・支援体制の充実	①相談窓口の充実	生活福祉課	S: 大いに効果を得た。	生活・就労相談窓口を設置し、自立支援相談、家計改善相談、就労相談を実施する体制づくりができた。また、福祉サービス連携推進会議を開催し、緊急時に市職員が迅速かつ適切に対応にあたるための「緊急時の対応マニュアル」を作成した。	S: 特に積極的に取り組む。	4 7 16 17 18	
			障がい者支援課	A: 効果を得た。	専門性を有する保健師等を配置すると共に、生活支援センターを設けることにより、障がい者・難病患者の相談支援の充実に取り組むことができた。また、障がい者の成年後見等に携わっている司法書士に繋げるよう連携を強化することができた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	17 18 20	
			高齢者支援課	S: 大いに効果を得た。	地域包括支援センターにおいて、高齢者の介護や福祉サービス等の相談を受ける体制ができた。	S: 特に積極的に取り組む。	17 18	
			健康課	S: 大いに効果を得た。	母子健康手帳の交付は、健康課と平成29年度からは、「あきる野子育てステーションこころの」窓口の増設により実施している。また、母子健康手帳交付時の妊婦全員との面接をはじめ、妊娠20週の妊婦訪問や電話掛け、出産後には、新生児訪問や乳幼児健康診査、育児相談等において、妊娠期から子育て期まで切れ目のない相談支援を充実させた。	S: 特に積極的に取り組む。	17 18	
			子ども家庭支援センター	S: 大いに効果を得た。	あきる野ルピア2階に子ども家庭支援センターやファミリー・サポート・センターなどの子育て支援に係る機能を移転し、子育て支援拠点施設となる「あきる野子育てステーションこころの」を開設。相談しやすい窓口が整備されたことにより、子ども及び家庭に係る総合相談の充実が図られ、相談対応件数が増加した。 また、平成30年度からは子育て世代包括支援センターとして、利用者支援の母子保健型と基本型が連携し、妊娠期から子育て期にわたるまでの支援を行い、相談窓口の機能の充実を図った。	S: 特に積極的に取り組む。	17 18	
			保育課	A: 効果を得た。	保育課窓口窓口専門の非常勤職員を雇用することで相談窓口を充実させることができた。	B: 現状維持のため継続実施。	17 18	
			社会福祉協議会 (高齢者支援課)	S: 大いに効果を得た。	地域包括支援センター等と連携し、成年後見制度の利用等の相談や支援を行うことができた。	S: 特に積極的に取り組む。	17 18 20	
		②就労の促進・生活困窮者への支援体制の整備	生活福祉課	S: 大いに効果を得た。	生活・就労相談窓口を設置し、就労支援員による就労相談・指導を実施する体制づくりができた。	S: 特に積極的に取り組む。	4 7	
			障がい者支援課	A: 効果を得た。	障がい者就労・生活支援センターと連携し、障がい者職場体験実習を実施することで、障がい者の就労支援を推進することができた。(月5日間各2人の実習生の受け入れを行った。)	S: 特に積極的に取り組む。	7	
			高齢者支援課	A: 効果を得た。	シルバー人材センターと連携し、高齢者の就労相談を受ける体制づくりができた。また、随時、研修や講習等を行うことにより、高齢者の就労支援を行う体制を構築した。	B: 現状維持のため継続実施。	7 24	
			子ども家庭支援センター	A: 効果を得た。	自立支援教育訓練給付金や高等職業訓練促進給付金を活用した、ひとり親の母等の自立に向けた就業等への支援により、ひとり親家庭の生活の安定等につながった。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	7	
			子ども政策課	A: 効果を得た。	子どもの未来応援プロジェクトチーム会議において、子どもの将来が生まれ育った環境に左右されたり、貧困の連鎖に陥ることがないように連携を図りながら検討することができた。	S: 特に積極的に取り組む。	4 16	

<p>【重点課題】 (2)福祉サービスの充実及び体制の整備</p>	<p>①各計画に基づくサービスの充実及びサービスを受けやすい体制づくり</p>	健康課	A: 効果を得た。	様々な関係機関と協力しサービス等に関する情報提供を行う体制づくりができた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	17 18
		障がい者支援課	A: 効果を得た。	支援に携わる行政機関、福祉事業者、医療関係者等多数が参画する「地域自立支援協議会」で、障害福祉サービスについて情報共有を行い、適切な障害福祉サービスを受けることができる環境を整備した。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	17 18 22
		高齢者支援課	A: 効果を得た。	敬老行事に対する経費の一部補助、高齢者クラブへの助成、また、「シニア元気ガイドブック」の作成等、サービスの充実と情報提供を行う体制づくりを推進した。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	17 19 24
		生活福祉課	A: 効果を得た。	様々な関係機関と協力しサービス等に関する情報提供を行う体制づくりができた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	17 18
		子ども政策課	A: 効果を得た。	子ども・子育て支援事業計画に基づき、子ども・子育て家庭の視点にたったサービスを提供するとともに、支援を必要とする子育て家庭に情報が行き渡るよう、子育て支援ガイドブックや子育て応援サイト・アプリにより情報発信することで、サービスの充実及びサービスを受けやすい体制づくりができた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	17 18
		子ども家庭支援センター	S: 大いに効果を得た。	平成29年度にあきる野ルピア2階に子育てひろばこころを開所し、市内5か所の子育てひろばで、子育て相談や子育てサークル活動の場の提供、講座などを実施し、子育てひろば事業の充実を図った。平成30年度末の利用者数は、大人と小人を合わせて33,633人となった。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	12 17 18
		保育課	A: 効果を得た。	関係機関と協力し、情報共有することで福祉サービスの充実をはかることができた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	17 18
		地域防災課	A: 効果を得た。	町内会・自治会の活動を広く市民に情報提供できるよう支援することができた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	23
		社会福祉協議会 (生活福祉課)	A: 効果を得た。	様々な関係機関と協力しサービス等に関する情報提供を行うと共にチラシやパンフレット、広報誌などで情報提供を行う体制づくりができた。	A: 効果上昇をめざし継続実施。	23 24 29

基本理念	基本目標	施策	施策の方向	関連課	現行計画の現時点の評価 (取組みの結果、効果を得たか)	評価の主な理由 評価の理由を記入してください。また、評価の指標となる数値 (参加人数、回数、受診率など)があれば盛り込んでください。 数値で表せない場合は、工夫した取組や、充実した点を記入。	今後の方向性 次期計画期間の方向性 (令和2年度から5か年)	回答コード (ガイドラインに該当するコード、複数可)
笑顔あふれる安心して暮らせる保健福祉都市をめざして	【基本目標4】意識の醸成と担い手づくり	(1)地域保健福祉の向上	①福祉教育及び心のバリアフリー化の推進	子ども政策課	A:効果を得た。	地域子ども育成リーダーを養成するとともに、子どもの育成、子育て支援に関する提案事業に対し、補助金を交付することで、未来を担う子どもたちを地域で守り育てる意識の醸成や活動を推進することができた。	S:特に積極的に取り組む。	23 24 25
				障がい者支援課	A:効果を得た。	障害者差別解消法の周知・啓発事業として、市内で実施されるイベント等に出向き、パンフレット等の配布を行い、周知に係るアンケート等を行う等、障害理解の促進を図った。	A:効果上昇をめざし継続実施。	24 25
				指導室	A:効果を得た。	教育方針の1つである「人権尊重と社会貢献の精神を育む教育の推進」に基づき、市教育委員会は、人権教育の充実に向けて人権教育推進委員会や研修会を開催した。	B:現状維持のため継続実施。	24 25
				高齢者支援課	A:効果を得た。	認知症サポーター養成講座、認知症サポーターステップアップ講座を開催し、誰もが暮らしやすい地域づくりを行った。また、介護教室を開催し、介護する家族等の知識向上を図った。	B:現状維持のため継続実施。	23 24 25
	[重点課題] (2)人材育成の推進	①担い手の育成	健康課	A:効果を得た。	国及び東京都の研修や講演等に積極的に参加し、資質の向上に努めた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	25	
			障がい者支援課	A:効果を得た。	①「あきる野市障がい者福祉計画」「あきる野市特別支援教育推進計画」に沿って、障がい児が必要な教育や支援が受けられるよう、教育委員会や都立あきる野学園と連携し、取組を進めた。 ②9月に「あきる野市障がい者防災・スポーツフェア2018」を開催し、障がい者に関わるボランティアについて広く市民に親しみをもってもらえるよう催しの中でも周知活動を行った。	B:現状維持のため継続実施。	24	
			高齢者支援課	A:効果を得た。	認知症サポーター養成講座及び認知症サポーターステップアップ講座を開催し、認知症をもつ市民やその家族のサポーターを養成した。	A:効果上昇をめざし継続実施。	17 24	
			生活福祉課	A:効果を得た。	生活・就労相談窓口担当相談員として、経験と実績のある嘱託員を雇用し、国や都で実施する専門研修を受講し資質の向上に努めた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	4 17 25	
			子ども政策課	A:効果を得た。	地域子ども育成リーダーを対象に子どもの特性や支援の仕方、普通救命講習などのフォローアップ研修会を実施することで、子ども・子育て支援に資する人材を育成することができた。	S:特に積極的に取り組む。	25	
			子ども家庭支援センター	A:効果を得た。	子ども家庭支援ワーカーを増員し、虐待ワーカーや専門相談員を配置して、都や専門機関が実施する研修会に参加し資質の向上に努めた。 また、ファミリーサポートセンター事業において、地域の中で子どもたちが健やかに育っていけるよう育児の援助を希望する方と、育児の援助をしたい方が会員となって地域での活動を行った。	A:効果上昇をめざし継続実施。	25	
			保育課	A:効果を得た。	保育園で実習生を受け入れたことで、保育士の仕事に対するアプローチができた。	B:現状維持のため継続実施。	25	
			社会福祉協議会 (生活福祉課)	A:効果を得た。	災害ボランティア養成講座や夏！体験ボランティアなど小学生から大人まで福祉に興味を持ち地域で継続して活動できるよう取組を行うことができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	23 24 29	
			②福祉ボランティアの支援	高齢者支援課	A:効果を得た。	生活支援コーディネーター及び地域ぐるみの支え合い推進協議体を設置し、ボランティアによる高齢者の生活支援と介護予防の支援体制づくりができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	23 24 29
				健康課	A:効果を得た。	めざせ健康あきる野21推進会議として、市民への活動の推進や連絡会の開催などボランティア活動を支援する体制づくりができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	23 24
				社会福祉協議会 (生活福祉課)	A:効果を得た。	ボランティアセンターとして市民への啓発活動や団体への補助、連絡会の開催などボランティア活動を支援する体制づくりができた。	A:効果上昇をめざし継続実施。	23 24 29

調査2-② 新たな取組の確認

現計画に記載のない新たな取組について、次の表に記入してください。

【選択肢】
 S: 特に積極的に取り組む。
 A: 効果上昇をめざし継続実施。
 B: 現状維持のため継続実施。
 C: 縮小する。
 D: 廃止・終了する。
 新: 新たに着手する。
 検: 着手するための検討に入る。

基本理念	基本目標	新たな取組が該当する施策&施策の方向 (該当するものが無い場合は「該当なし」を選択)	関連課	開始時期	新たな取組の内容 現行計画に記載のない新たな取組があれば記入。 事業名も記入してください。	今後の方向性 次期計画期間(令和2年度から5か年)の方向性	回答コード (ガイドラインに該当するコード、複数可)	
笑顔あふれる安心して暮らせる保健福祉都市をめざして	3	(1)相談・支援体制の充実	①相談窓口の充実	生活福祉課	令和2年度(予定)	【事業名:未定】 再犯防止計画の策定に向けて検討を行う。	検:着手するための検討に入る。	11
	3	[重点課題] (2)福祉サービスの充実及び体制の整備	①各計画に基づくサービスの充実及びサービスを受けやすい体制づくり	子ども家庭支援センター	平成30年度	【事業名:病児・病後児保育事業】 病氣中又は病氣の回復期にあり、保護者が仕事などにより家庭で保育を行うことが困難な生後6か月から小学校3年生(9歳)までの子どもを一時的に預かり、公立阿佐留医療センターの看護師1人、保育士2人が常駐し、医師が巡回する形で実施する。なお、本事業は、あきる野市、日の出町及び檜原村の3市町村の広域利用事業として実施する。	A:効果上昇をめざし継続実施。	18
	3	[重点課題] (2)福祉サービスの充実及び体制の整備	①各計画に基づくサービスの充実及びサービスを受けやすい体制づくり	子ども家庭支援センター	平成30年度	【事業名:乳幼児一時預かり事業(一般型)】 家庭で育児をする中で、少し息抜きをしてリフレッシュしたい時などにお子さんを一時的にお預かりする。	A:効果上昇をめざし継続実施。	18
	2	[重点課題] (2)見守り体制の充実	①見守りネットワークの充実	子ども政策課	平成31年4月	【事業名:総合的な子どもの居場所づくりの検討】 子どもへの学習支援や食事提供をはじめとした生活支援など、地域全体で子どもの成長を支える仕組みについて検討を行う。	検:着手するための検討に入る。	2 23
	3	(1)相談・支援体制の充実	②就労の促進・生活困窮者への支援体制の整備	障がい者支援課	平成30年度	【事業名:農福連携事業】 就労支援事業所が市内の農業従事者から作業を請け負うことにより、工賃の向上を目指す。事業所と農業従事者間の調整は就労・生活支援センターが行う。	A:効果上昇をめざし継続実施。	1 7
	3	(1)相談・支援体制の充実	②就労の促進・生活困窮者への支援体制の整備	子ども家庭支援センター	平成31年4月	【事業名:母子・父子自立支援プログラム策定事業】 児童扶養手当受給者の状況、ニーズ等に対応した自立支援プログラムを策定し、これに基づき、きめ細やかで継続的に自立及び就労を支援する。	新:新たに着手する。	7
	3	(1)相談・支援体制の充実	①相談窓口の充実	健康課	令和2年度	【事業名:自殺対策推進事業】 誰もが自殺に追い込まれない社会をめざして、自殺対策に関連する施策との有機的な連携を図り、総合的に実施する。	新:新たに着手する。	8 16
	3	(1)相談・支援体制の充実	②就労の促進・生活困窮者への支援体制の整備	生活福祉課	令和2年度(予定)	【事業名:就労準備支援事業】 就労に向けた準備が整っていない生活困窮者等に対して、一般就労に向けた準備としての基礎能力の形成からの支援を計画的かつ一貫して実施する。	検:着手するための検討に入る。	1 4 7